

地域在住高齢者の要介護認定のリスク要因の検討

AGES プロジェクト 3年間の追跡研究

ヒライ 平井
オジマ 尾島
ヒロシ 寛*
トシユキ トシユキ 俊之^{3*}
コンドウ 近藤
カツノリ カツノリ 克則^{2*}
ムラタチ ムラタチ 村田千代栄^{3*}

目的 本研究では、地域在住高齢者9,702人を3年間追跡し、要介護認定のリスク要因の検討を行った。

方法 2003年10月、東海地方の介護保険者5市町の協力を得て、各市町に居住する65歳以上で要介護認定を受けていない高齢者24,374人を対象とした自記式アンケート郵送回収調査を行った。調査回答者は12,031人（回収率49.4%）であった。このうち、性別、年齢を回答していない者（n=1387）、歩行、入浴、排泄が自立していないまたは無回答の者（n=905）、2003年10月31日までに要介護状態になった者、死亡した者（n=37）を除いた9,702人を分析対象とし2006年10月まで3年間追跡した。

目的変数（エンドポイント）は要介護認定とした。説明変数として年齢、家族構成、等価所得、教育年数、治療中の疾病の有無、内服薬数、転倒、咀嚼力、BMI、聴力障害、視力障害、排泄障害、老研式活動能力指標、うつ、主観的健康感、飲酒、喫煙、一日当たりの平均歩行時間、外出頻度、友人との交流、社会的サポート、会参加、就労、家事への従事を用いた。

Cox 比例ハザード回帰分析を用いて、要介護認定についてのハザード比を求めた。分析は男女別に行った。分析にはすべてSPSS 12.0J for Windows のCox 比例ハザード回帰を用いた。

結果 3年の追跡期間中の死亡は520人、要介護認定838人、重度要介護認定380人であった。転出等による追跡打ち切りが103人であった。男女共通して要支援以上の要介護認定の高いリスクと関連していることが示されたのは、年齢高い、治療中の疾病あり、服薬数多い、一年間の転倒歴あり、咀嚼力低い、排泄障害あり、生活機能低い、主観的健康感よくない、うつ状態、歩行時間30分未満、外出頻度少ない、友人と会う頻度月1回未満、自主的会参加なし、仕事していない、家事していないこと、であった。

結論 要介護に認定に関連するリスク要因を明らかにした。これらに着目した介護予防プログラムの開発が必要である。

Key words : 高齢者, 要介護認定, コホート研究, リスク要因

* 日本福祉大学地域ケア研究推進センター

^{2*} 日本福祉大学社会福祉学部

^{3*} 浜松医科大学健康社会医学

連絡先：〒460-0012 愛知県名古屋市中区千代田
5-22-35

日本福祉大学地域ケア研究推進センター 平井 寛